

たくさんの思い出をありがとう 繫小学校

繫地域で住民に長く愛され、2300人を超える卒業生を送り出してきた市立繫小学校（繫字館市）。多くの人に惜しまれながら、3月31日に閉校しました。

148年の歴史に幕

繫小学校は、明治6年に民家を借用して授業を開始。校舎の目の前には岩手山を望む御所湖が広がり、豊かな自然環境と地域の愛情で子どもたちを守り育てました。以前は敷地内につなぎ幼稚園と繫中学校も併設されており、幼小中一貫教育を実践しました。昭和60年からは、地域の郷土芸能である「つなぎ伝統さんさ」の伝承活動に取り組み、地域の祭りや盛岡さんさ踊りで披露してきました。

地域と学校に感謝を込めて――

3月20日に開かれた閉校式には、卒業生や地域の住民約160人が出席し、当時の思い出を振り返り、慣れ親しんだ学びや思い出を話しました。式典に出席した、同校卒業生の村上愛子さん（81）と高橋紀子さん（79）は、「小学生の頃は、皆でまきを運んだり草取りをしたり、友人とさまざまなことをして楽しかった思い出ばかり。閉校し、子どもたちのにぎやかな声が聞こえなくなるのが寂しいです」と、懐かしい思い出に浸りました。

最後の児童会長となった卒業生の土門紅愛さんは、「繫小学校の大好きなところは、きれいな木造の校舎と全員の仲がいいところです。人とつながり合うことの楽しさ、大切さをこの学校で学んできました」と6年間の思い出を振り返りました。

繫小最後の卒業生3人は、中学校に進学し、在校生9人は4月から統合先の太田小で新しい学校生活を送っています。



1：平成20年に改築した木造のレトロ調な校舎 2：地域の人が保護者など、多くの方が母校との別れを惜しみました 3：「新しい世界へ旅立ちます」と決意を述べた土門さん 4：在校生12人が「ありがとう繫小、さようなら繫小」と別れの言葉を発表 5：平成4年の盛岡さんさ踊りの様子 6：令和2年の伝統さんさお披露目会

写真 de もりおか

市内で開催されたイベントや出来事を紹介します。紙面で紹介しきれなかった写真は、市ホームページの取材日記に掲載しています。



取材日記

3月21日 紺屋町番屋が生まれ変わりました



市の景観重要建造物「紺屋町番屋」が交流・体験施設としてリニューアルオープン。大正2年に盛岡消防よ組の番屋として建築され、平成17年まで消防団の屯所として使われました。1階は軽食を楽しめるカフェや伝統の裂き織製品などの販売コーナー、2階は予約制で機織りなどの体験ができる工房です。ぜひ足を運び、建築当時の建材を一部再利用した店内の雰囲気を楽しんでみませんか。

4月2日 材木町「よ市」が開幕！



盛岡に春の訪れを告げる「材木町よ市」（同実行委員会主催）が開幕しました。晴天に恵まれたこの日は、感染拡大防止対策を講じながら約102店舗が出店。家族で訪れた佐想知聡さん（材木町）は「いつも野菜や日用品を買ったり、子どもたちと雰囲気を味わったりしているので、今年の開幕も心待ちにしていました。これからもこのにぎやかなよ市が続いてほしいです」と楽しんでいました。

4月12日 春を彩る桜の便り



開花した石割桜

盛岡地方裁判所（内丸）の敷地内にある国指定天然記念物「石割桜」が、昨年より7日遅い4月12日に開花。盛岡地方気象台（山王町）の敷地内にあるソメイヨシノの標本木も4月14日に開花し、平年より早く盛岡に桜の便りが届きました。本年は、盛岡城跡公園（内丸）と高松公園（高松一）で3年ぶりに盛岡さくらまつりが開催され、花見を楽しむ多くの人でにぎわいました。

もりけんに挑戦
(11ページに掲載)の答え
①常光寺

広報もりおかへのご意見をお待ちしています
アンケート専用フォームから、特集や各記事への意見をお寄せください。あなたの意見が広報もりおかを育てます。



編集後記
本格的な春の訪れとともに外出する機会が増えました。新型コロナウイルスの感染予防対策をしっかりと楽しみたいと思います。（真田）

地球環境に配慮したインキを使用しています。